

平成 19 年度第 3 回新潟空港アクセス改善検討委員会を 開催しました

県では空港アクセス改善の段階的取組の実施に向け、超短期・短期等の取組についての継続的な評価・提言や、将来の社会情勢の変化等に対応したシナリオの再評価、見直し等の検討を行うため、有識者による「新潟空港アクセス改善検討委員会」を設置し、検討を進めています。

本日、平成 19 年度第 3 回委員会を開催しました。会議の概要は以下のとおりです。

記

1. 日時・場所

平成 19 年 11 月 22 日(木)13:30～15:30

新潟県自治会館 別館 9 階 902 会議室 新潟市中央区新光町 4-1

2. 委員の構成、会議資料 添付のとおり

3. 主な議論・発言

(1) 短期的取組について

新潟駅南口発着空港バス新設案について

空港バスの新潟駅南口発着の必要性、想定される運行形態（運行頻度、ダイヤ等）、ルート等について、事務局から考え方を説明し、意見交換を行った。

- ・ 空港バスの乗降口については、南口発着を基本として検討を進める。
- ・ ルート案については、総合的な評価を行い、ルートを選定する。
- ・ 利便性の観点からは終日 20 分間隔の運行が望ましいものの、事業性の課題もあるので、事業性を考慮した運行形態について検討・整理の上、次回の検討委員会で考え方を整理する。

主な委員意見

【新潟駅での乗降口等について】

- 乗降口が南口に移転すると、バス＆バスの乗り換えや南口と万代口に分散するといった課題もあるので、案内表示の徹底等、ソフト面での対応が必要である。
- 2 次交通手段に関するアンケート調査について、次回調査では「その他」約 20%の内訳を調べるべき。

【運行形態について】

- 20 分間隔のバス運行では赤字になることも予想されるが、赤字が積みあがるようでは運行が成り立たなくなってしまうので、事業性も考慮する必要がある。
- 新潟空港の特有路線利用者のことを考えると、多少経済性を損なっても利便性を高める必要もあるのではないか。
- バスの入線時間を早くするだけでも、利用者の安心感は違ってくる。バスの運行上対応ができる範囲で早めて欲しい。

- やはり自動券売機の設置を行うべき。
- 利便性が高いに越したことはないが、バスカード利用者等もいるので、券売機の需要等が本当にあるのか、きちんと検証すべき。
- 空港内でのバス運行、バス券発売のアナウンスといったサービスが充実してきている。

【ルートについて】

- ルート1 が合理的な選択と思われる。PTPS (公共交通優先システム) の設置等、速達性、定時性をさらに高める方策を検討して欲しい。
- バイパスは渋滞する。一度バイパスに乗ってしまうと下りることができない。
- 3 案以外のルートで、他に良いものがないといったバックデータ(パーソナルトップ調査等)を次回検討委員会で示して欲しい。

(2) 中・長期的取組について

検討状況の報告

軌道系による中・長期アクセス案の実現化に向けた課題の整理・検討を行うため、実務レベルの検討状況について、事務局から臨港貨物線案を中心とした現時点での検討状況の報告を行った。

- ・ 新潟駅連続立体交差事業後に空港アクセス線が新潟駅へ乗入れることは、新潟駅ホームの容量の問題等から難しいことが想定されるため代替手段の検討を行う
- ・ 白新線へのDMV 乗り入れは、JR 在来線との運行速度の違い、新潟駅への専用ホームの整備が必要であること等から考えて実現は困難であること等、意見交換が行われた。
- ・ さらに勉強会で課題の掘り下げを進め、次回以降の委員会で経過を報告する。

主な委員意見

- DMV について、先般脱線事故もあった。現段階で安全面での課題がクリアされていないように思われる。今後の検討の中で進展があったら報告をお願いしたい。
- 新潟市の都市政策との連携等も絡んでくる。
- 実現が難しい案は早めに落としていくことも必要。
- 仙台空港アクセス鉄道では、ショッピングセンター利用者を取り込んだ開発を行った。

本件についての問い合わせは
 交通政策局港湾振興課企画班 内線 3458
 担当：中川、原田、覚張(がくはり)までご連絡ください。